

The background features a city skyline with various buildings and a network overlay of white lines and dots. Several circular icons are scattered across the image: an airplane icon at the top center, a location pin icon in the lower center, a computer monitor icon at the bottom right, and a Wi-Fi signal icon in the middle right. The overall color palette is light blue and grey.

養父市  
～Well being指標の活用～

本資料は、養父市の「Liveable Well-Being City指標(以下、LWC指標)」をまとめた資料です。

LWC指標とは、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートが作成・開発し、政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」において、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感(Well-being)」を計測する指標として利用されているものです。

LWC指標は、「客観指標」と「主観指標」で構成されており、これらのデータをバランスよく活用し、市区町村の特徴を全体的に把握し、市民の幸福因子を特定し、まちづくりに活かすことを目的としています。

なお、数値及び分析は、養父市独自に実施したものではありません。

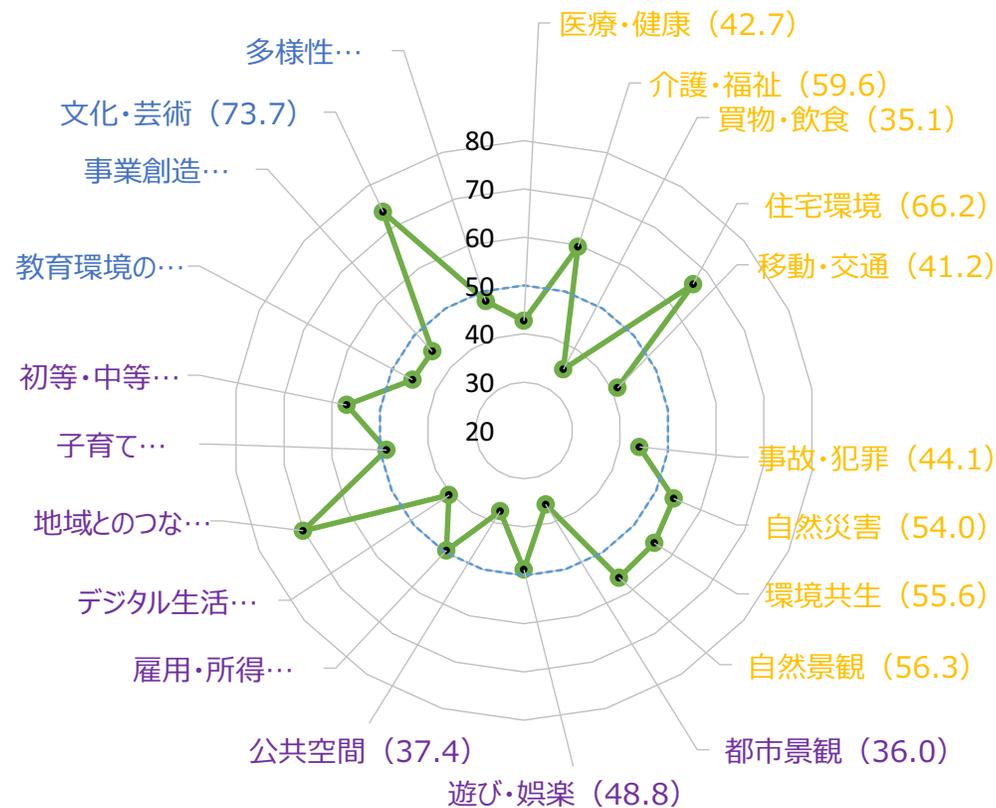
## 概要

人口	22,129人	高齢化率	39.03%
可住地人口密度	331人/km2	昼夜間人口比率	101.24%
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	・兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し、2004年に4 町が合併し、誕生。 ・交通は、南北に広域的な道路・鉄道のネットワークを形成し、京阪神及び山陰地方と約 2 時間で結ばれている。近くの但馬空港までは約 10km で、そこから大阪空港とは約 30 分で結ばれている。 ・山林原野が 84.6%を占め、農業を主要な産業として位置付けており、国家戦略特別区域法による『中山間地農業』の改革拠点である。		
将来都市像	「響きあう心 いきいき安心 福祉の郷 養父市」		

## サマリー

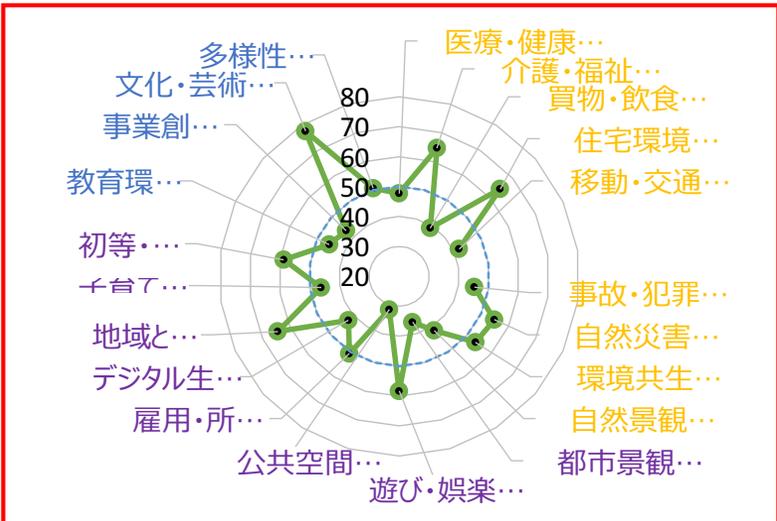
- 兵庫県下最高峰の氷ノ山をはじめ、鉢伏高原、若杉高原など自然環境に恵まれ、冬のスキーを始め、自然体験のレクリエーションが豊富であることが強み。
- 人口は1985年をピークに減少基調でありながら、令和2年度時点で老年人口割合は 39.54%と全国平均を大きく上回っており、典型的な少子化高齢化の進行がみられる。
- 産業別生産額は、基幹産業である第 1 次産業は 2%ほど、第 2 次産業は 18%ほど、第 3 次産業は 77%ほどと医療福祉や製造業が中心となっている。就業人口は、近年第 1 次産業減少傾向にある一方、第 3 次産業は増加傾向にある。
- 市内の大屋地域を中心に、芸術で観光交流人口を増やす「おおやアート村構想」を掲げており、芸術家が住みついており、一つの芸術文化地域を形成している。
- 養父市では、2022年10月2日時点でがマイナンバーカードの申請率が82.9%と、全国平均を大きく上回り、近畿地方ではNo.1である。今後は普及率を活かし、デジタルサービスの提供を拡充していく。

## カテゴリー別偏差値

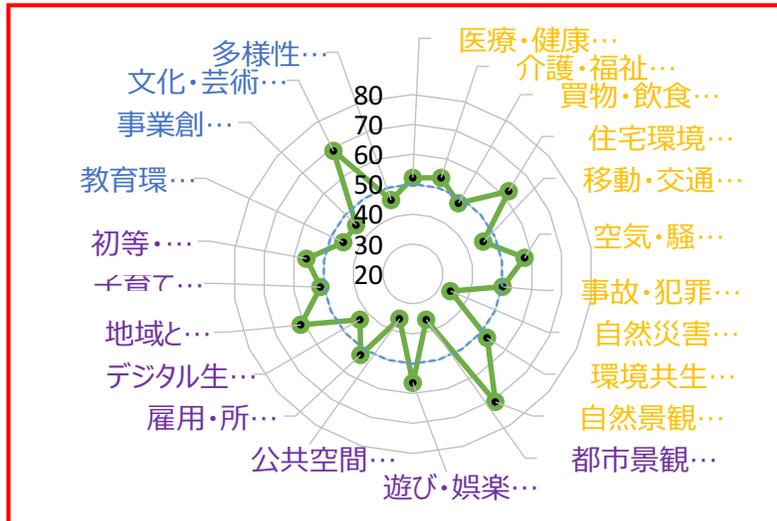


	総合	身体	社会	精神
客観	50.2	50.5	48.5	53.0

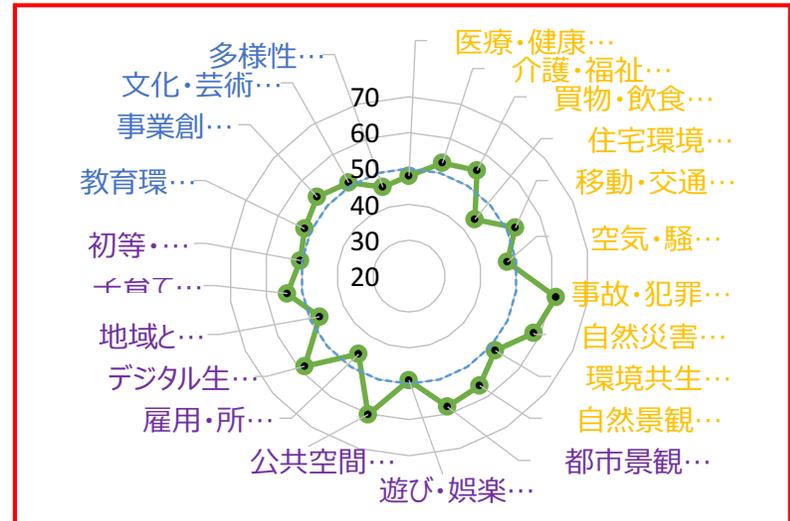
\*凡例:  
 カテゴリー名 (指数の値)  
 --- 平均値(偏差値50)



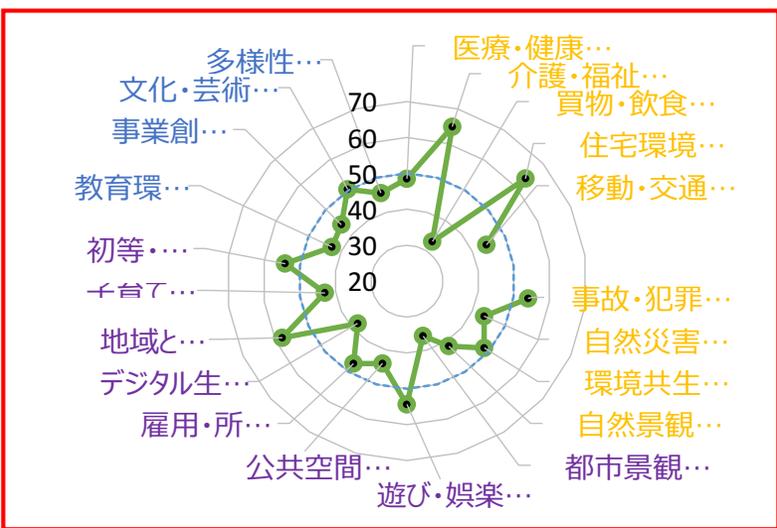
総合偏差値(客観) 50.4 **兵庫県朝来市(隣接市)**



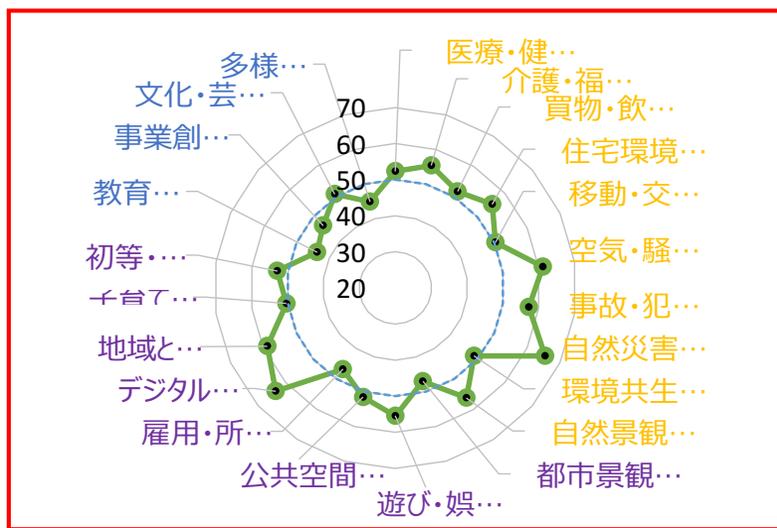
総合偏差値(客観) 51.1 **兵庫県豊岡市(隣接市)**



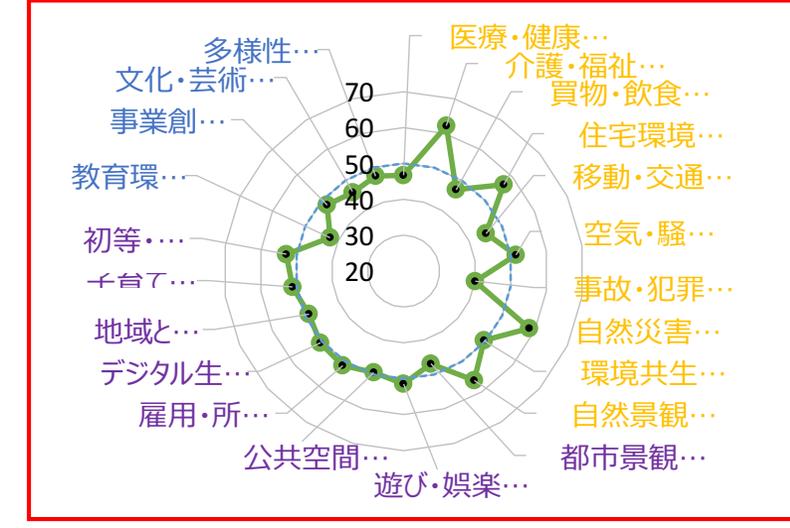
総合偏差値(客観) 52.4 **兵庫県神戸市(県庁所在地)**



総合偏差値(客観) 47.6 **宮城県角田市(可住人口密度が同様)**



総合偏差値(客観) 53.2 **福島県会津若松市(地域DX推進)**



総合偏差値(客観) 50.0 **宮崎県都城市(マイナンバーカード交付率1位)**

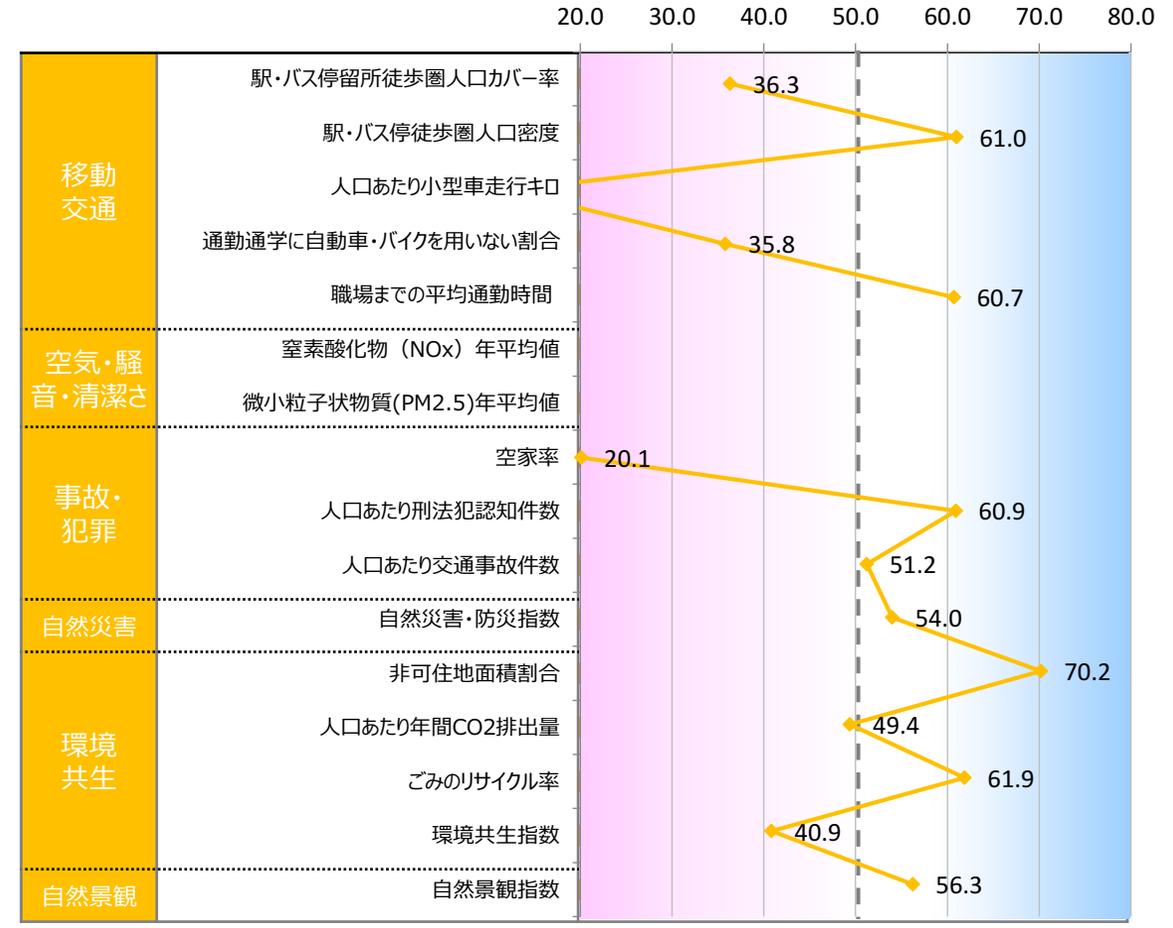
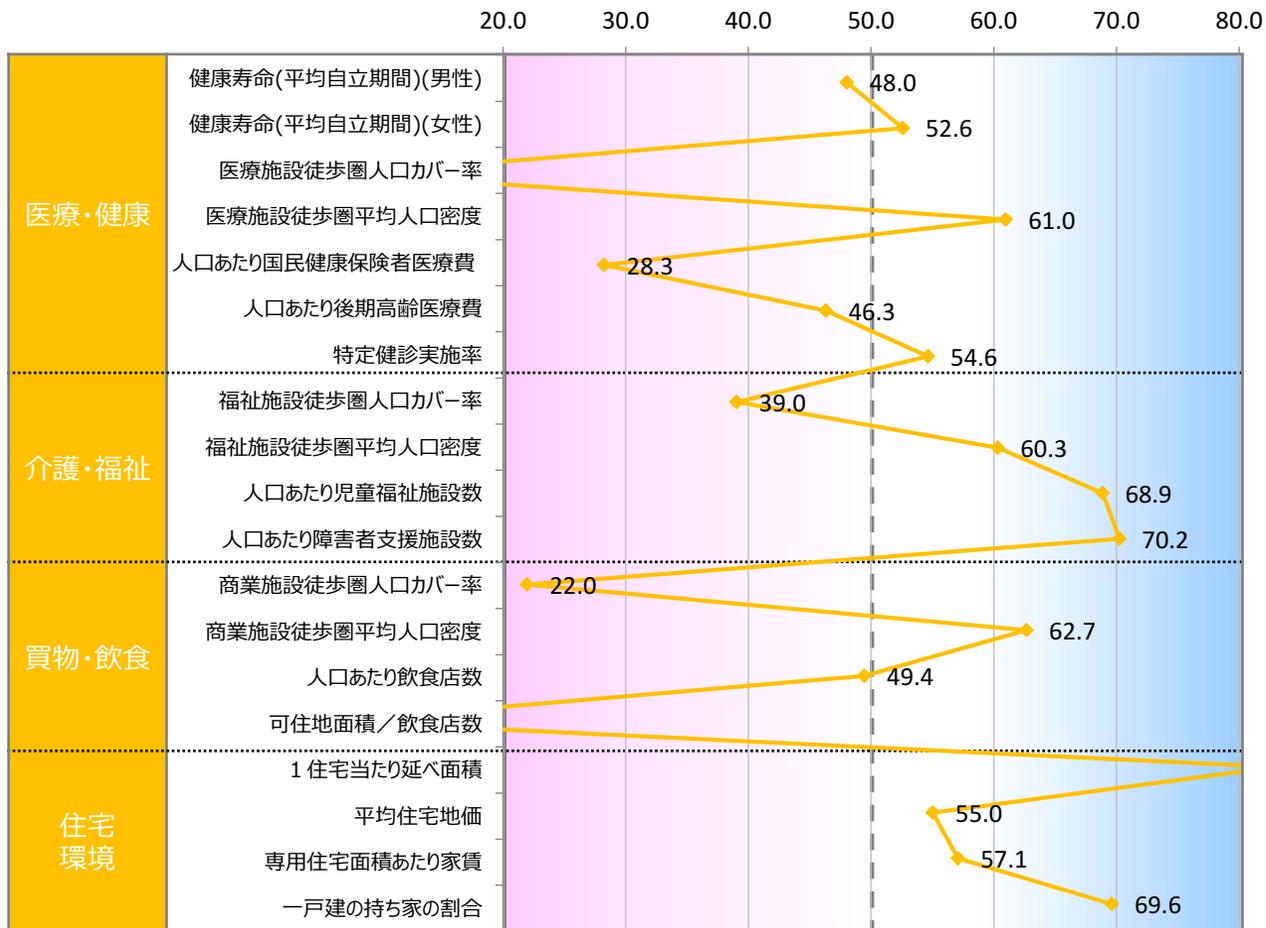
全市町村を対象に調査されたさまざまな統計データを、「身体的健康」「社会的健康」「精神的健康」に分けて、偏差値で表したものの。

- 客観指標各KPIの偏差値については、各数値が良い方向であるほど偏差値が高くなるように設定されている  
(例) 空き家率が低い→空き家率の偏差値が高い

- └ 生データの数値が高いほど良い状態を示すKPIの偏差値の計算方法  
偏差値 =  $50 + (\text{各市区町村のKPI} - \text{平均値}) / \text{標準偏差} \times 10$

- └ 生データの数値が高いほど悪い状態を示すKPIの偏差値の計算方法  
偏差値 =  $50 - (\text{各市区町村のKPI} - \text{平均値}) / \text{標準偏差} \times 10$

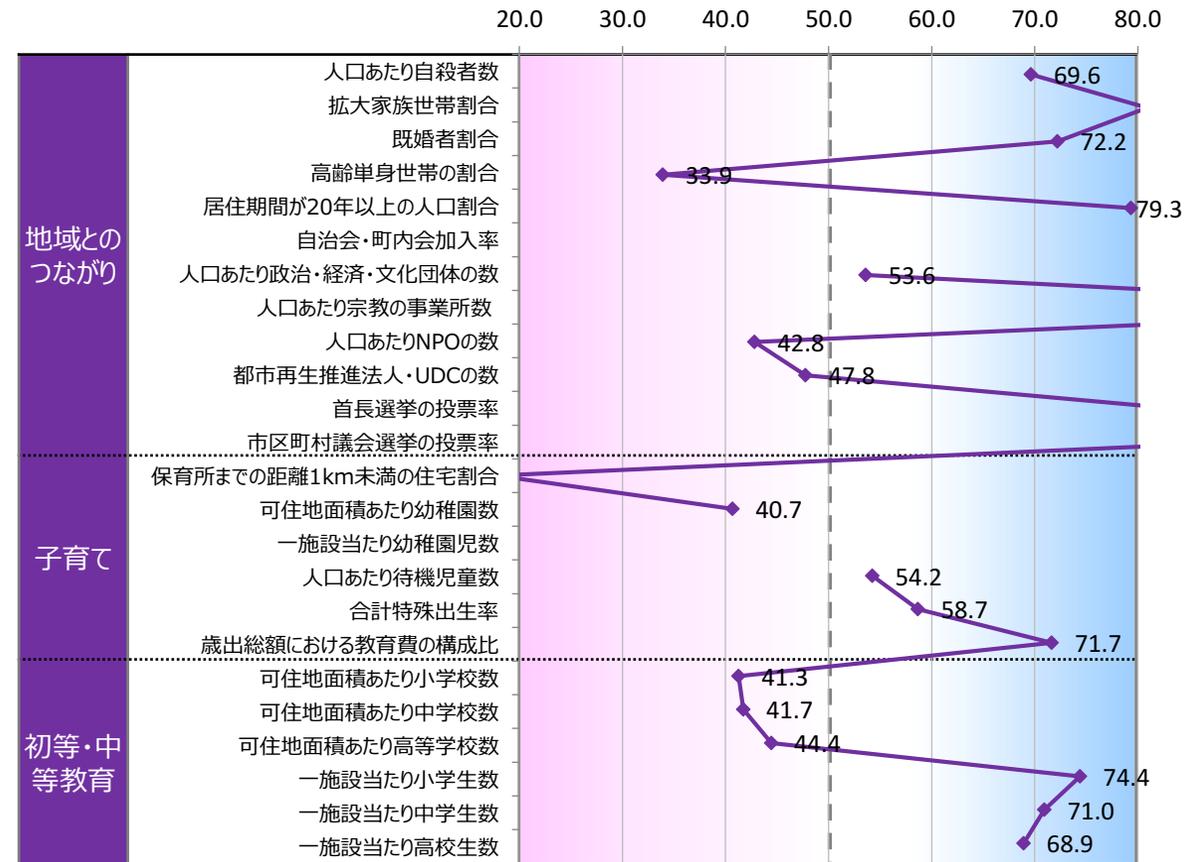
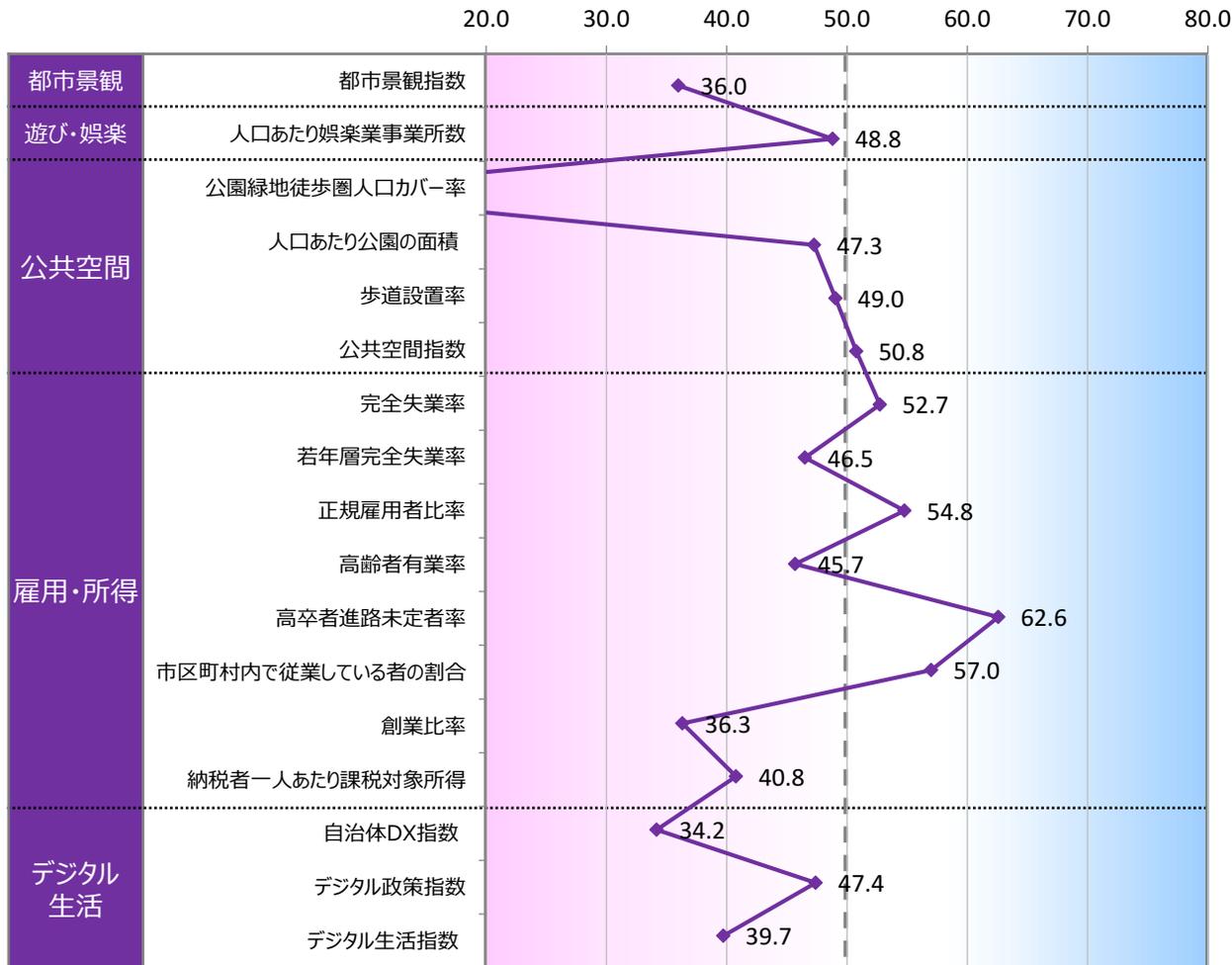
- 「平均値」と「標準偏差」は、10万人以上の都市を母集団としている



(\*) 指数の説明

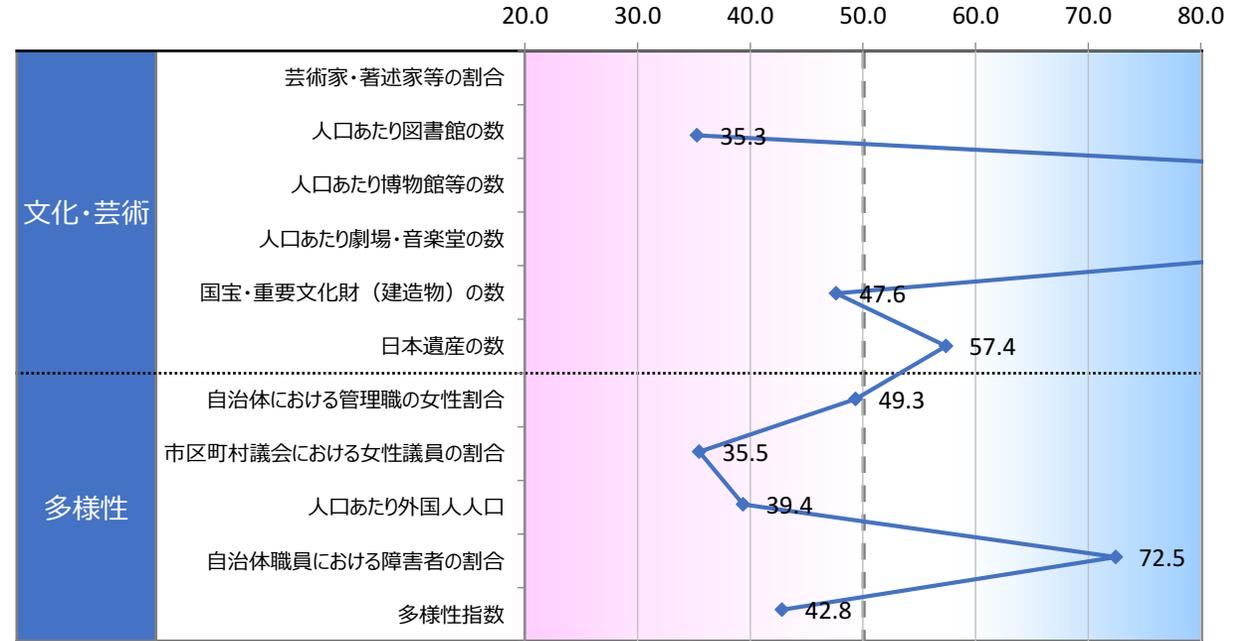
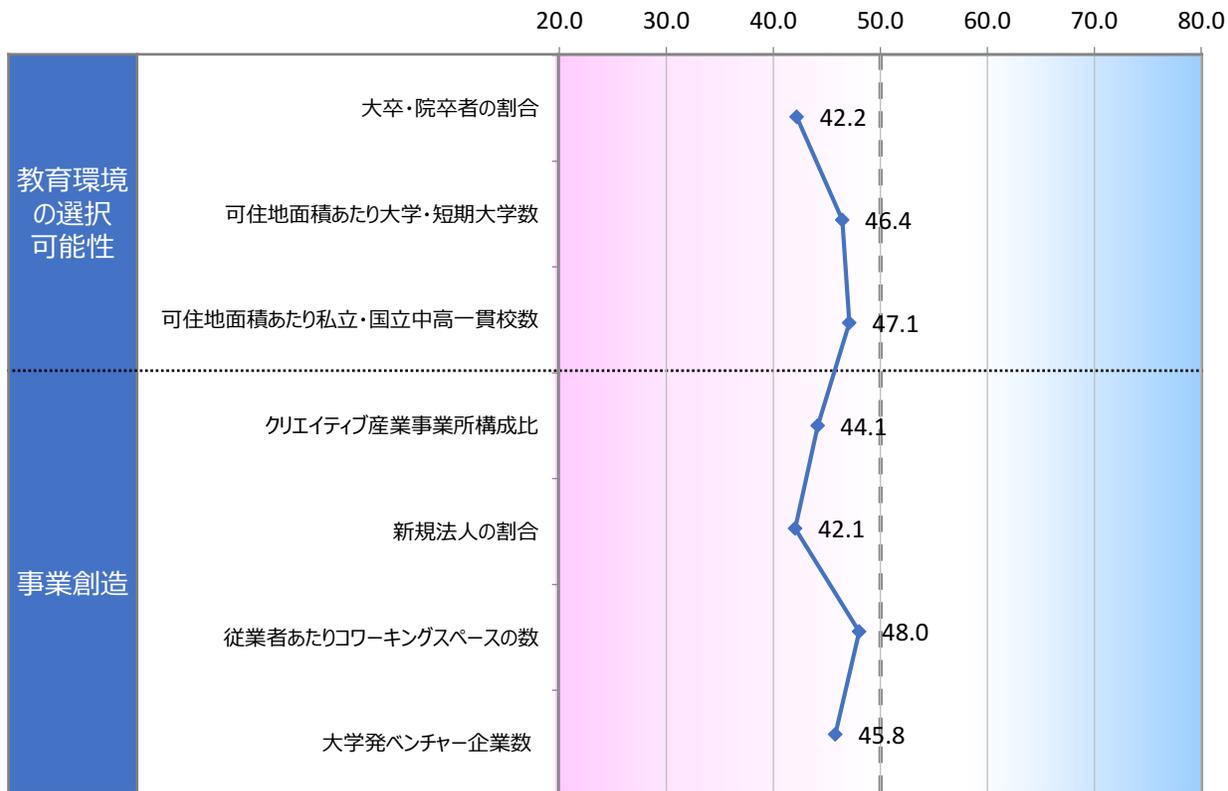
指数名	指数の意味	集計対象
環境共生指数	自治体における環境共生への取り組みを総合的に評価	・SDGs未来都市 ・2050年CO2排出実質ゼロ表明 ・グリーン契約の契約方針 ・気候変動イニシアティブへの参加 ・脱炭素先行地域
自然景観指数	まちのきれいな自然景観を総合的に評価	・国立・国定公園 ・農林水産省「美しい日本のむら景観百選一覧」 ・景観重要樹木の有無

LWCI因子カテゴリー	考察 (カッコ内の数字は対応する偏差値) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;">                         赤色：生データの数値が大きいほど偏差値が高いもの                          青色：生データの数値が大きいほど偏差値が低いもの                     </div>	追加KPI候補
医療・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 特定健診実施率は安定している(54.6)。一方で、医療施設徒歩圏平均人口密度は低く(61.0)、医療施設徒歩圏人口カバー率も低い(7.90)。後期高齢者人口の急速な増加が見込まれているため、医療施設へのアクセスを容易にする工夫が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療施設までの移動平均所要時間</li> </ul>
介護・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人口あたりの児童福祉施設数(68.9)、障害者支援施設数(70.2)は高い。一方で、福祉施設徒歩圏平均人口密度は低く(60.3)、福祉施設徒歩圏人口カバー率が低い(39.0)ため、アクセスが困難な地域に住む市民の福祉施設へのアクセスを容易にする工夫が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 福祉施設までの移動平均所要時間</li> </ul>
買物・飲食	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 商業施設徒歩圏平均人口密度は低く(62.7)、医療施設、福祉施設同様、徒歩圏人口カバー率(22.0)は低いため、アクセスが困難な地域に住む市民に対するフォローが必要である。また、若い世代の定住または移住を促進するために飲食店数の増加は魅力づくりとして有効な可能性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 新規飲食店、商業施設数</li> </ul>
住宅環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 住宅環境においては、全体的に高い。1戸建の持ち家の割合が高く(69.6)、1住宅当たり延べ面積が高い(83.0)。一方で、平均住宅地価は低いため(55.0)、家族での住居環境は整っている。この点は移住促進に活かせる。</li> </ul>	
移動・交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 移動・交通においては、全体的にマイナスな評価であり、市民アンケートにおいても定住のマイナス要因の一番に挙げられている。デマンド型交通の利便性向上やMaaSなどの取り組みで補う等が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 直近の移動・交通で困ったシーン</li> <li>■ 「やぶくる」利用率</li> </ul>
事故・犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人口あたりの刑法犯認知件数は低く(60.9)、人口あたり交通事故件数も低い(51.2)ため、安全ではあるものの、空家率が高く(20.1)、害獣被害や、治安の観点で、撤去または利活用の対応が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 空き家バンクの活用数</li> </ul>
自然災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然災害・防災指数は高く、安全な環境を維持できている。</li> </ul>	
環境共生	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ゴミのリサイクル率は高い(61.9)が、非可住面積割合が高い(70.2)わりに、人口あたり年間CO2排出量が若干高い(49.4)ため、製造業をはじめとした、産業における対策が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 企業のCO2排出量削減への取り組み度合い</li> </ul>
自然景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自然景観指数(56.3)は高いため、停滞している観光産業に活かしていく。</li> </ul>	



指数名	指数の意味	集計対象
都市景観指数	まちの素敵な都市景観を総合的に評価	・「都市景観大賞」受賞の市区町村 ・景観条例の有無 ・景観重要建造物の有無 ・景観協定の有無
公共空間指数	歩きたくなる街並みかを総合的に評価	・ウォーカブル推進都市 ・地方版自転車活用推進計画
自治体DX指数	自治体内部のDX推進状況を総合的に評価	・総務省「自治体DX・情報化推進概要」のカテゴリー（「自治体DXの推進体制等」、「行政サービスの向上・高度化」等）
デジタル政策指数	自治体による住民のデジタル環境を整える取り組みを総合的に評価	・国交省Plateauの対象 ・オープンデータ公表 ・ローカル5G開発実証事業採択 ・スマートシティ合同審査 ・マイナンバーカード取得率 ・国勢調査ネット回答率
デジタル生活指数	まちのデジタル環境を総合的に評価	・Code for Japan 関連組織 ・ファブラボ ・CoderDojo ・大学のICT関連学部 ・高等専門学校 ・10万人あたりキャリア店舗数

LWCI因子 カテゴリー	考察 (カッコ内の数字は対応する偏差値)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">                     赤色：生データの数値が大きいほど偏差値が高いもの                      青色：生データの数値が大きいほど偏差値が低いもの                 </div>	追加KPI候補
都市景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市景観指数が低い(36.0)。自然景観は高く、市民アンケートにおいても定住のプラス要因として自然豊かな点が挙げられていることを踏まえると、自然を活かした都市づくりに取り組むことは強みを活かしたまちづくりとして有効と考えられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>景観条例の更新度合い</li> </ul>
遊び・娯楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口あたり娯楽業事業所数は低い(48.8)。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>新規娯楽事業所数</li> </ul>
公共空間	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共空間においては、全般的に低い。特に公園緑地徒歩圏人口カバー率は低い(2.69)。市民同士の交流促進のためにも、交流拠点を充実させることは望ましいと考えられる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>公共空間利用率</li> </ul>
雇用・所得	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産年齢人口を中心とした雇用は比較的安定しているが、高齢者有業率が高く(45.7)、また若年層完全失業率高い(46.5)ことから多様な働き場所を提供できていない可能性がある。また、創業比率が低く(36.3)、市内の働き場所を増加させるためにも、創業支援に取り組むことは重要である。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層平均勤続年数</li> </ul>
デジタル生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に低い。身体的で挙げられていた、物理的距離による日常生活の不満を解消するためにも、サービスへの円滑なアクセスを可能にするデジタル活用は急務である。</li> </ul>		
地域とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に高く、地域のつながりは作れている。高齢者単身世帯の割合が非常に高い(33.9)ため、地域のつながりを活かした「見守り体制」の支援を進めていく。</li> </ul>		
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>可住地面積あたり幼稚園数は低い(40.7)が、歳出総額における教育費の構成比(71.7)、合計特殊出生率は高く(58.7)、人口あたり待機児童数が低い(54.2)ため、地域特性にあった子育てしやすい環境になっていると考えられる。市民アンケートでも定住のマイナス要因として「子育て環境」を挙げる割合は少ない。</li> </ul>		
初等・中等教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校、中学校、高等学校、全てにおいて可住地面積あたりの数は少ないが、今あるそれぞれの学校の特色を伸ばしていくよう支援し、市内の子どもの通学率を維持できるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>市外の小学校、中学校、高等学校への通学率</li> </ul>

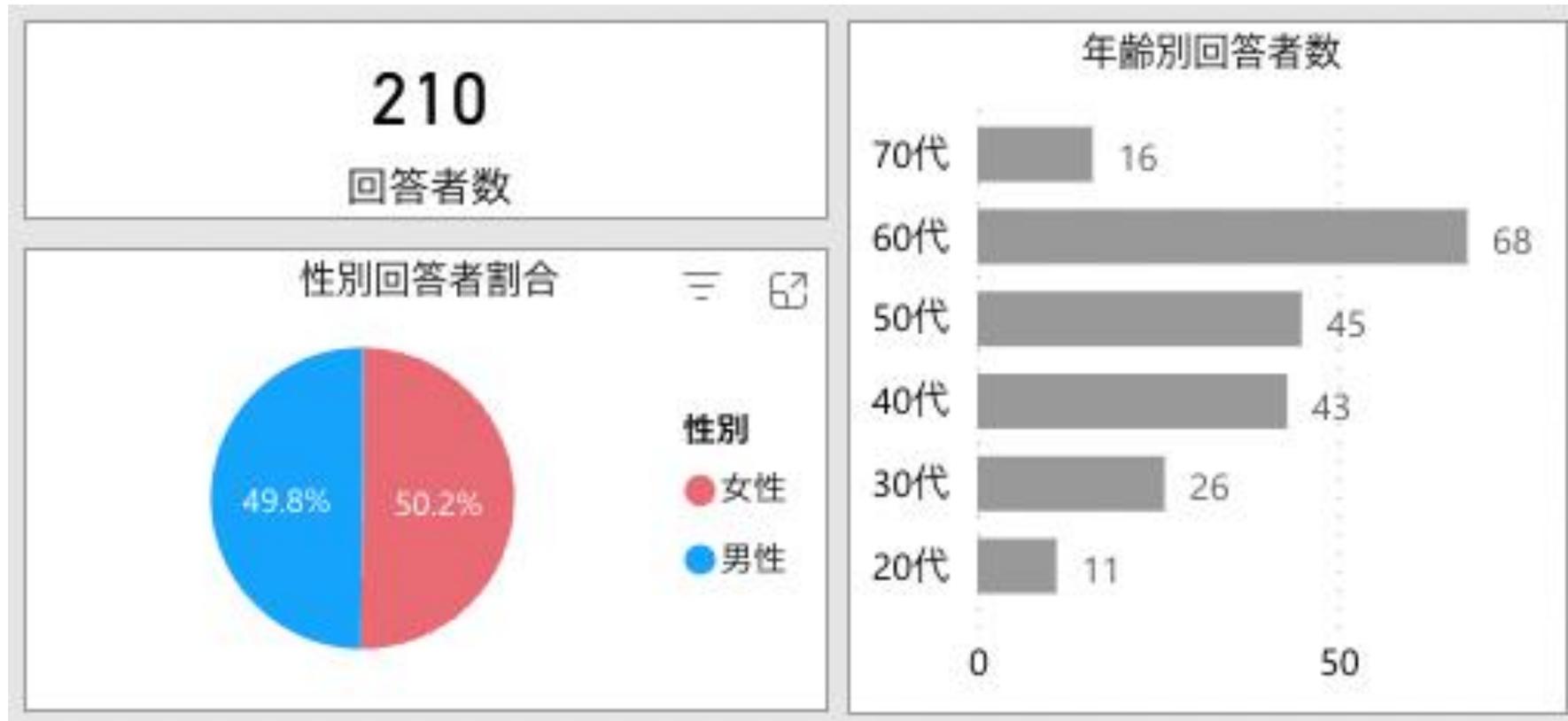


(\*) 指数の説明

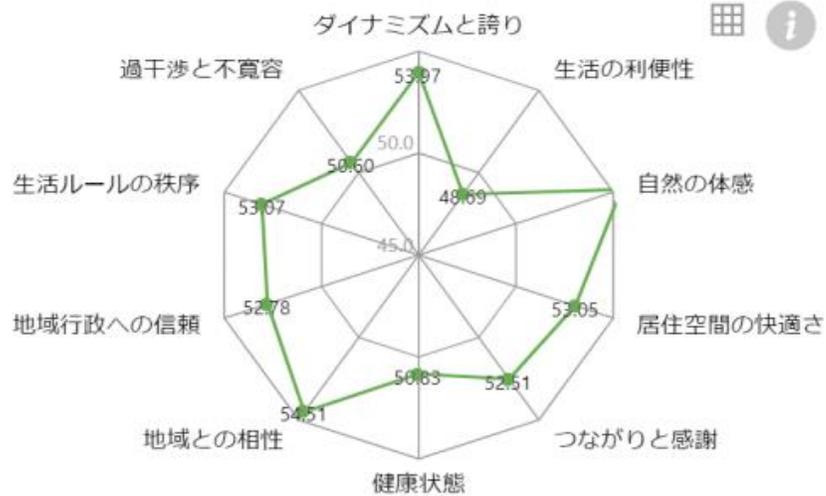
指数名	指数の意味	集計対象
多様性指数	住民の多様性を総合的に評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートナーシップ宣誓制度</li> <li>・住民の平均年齢が45歳以下であること</li> </ul>

LWCI因子 カテゴリー	考察（カッコ内の数字は対応する偏差値） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 10px;">                         赤色：生データの数値が大きいほど偏差値が高いもの                          青色：生データの数値が大きいほど偏差値が低いもの                     </div>	追加KPI候補
教育環境の 選択可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市内に大学はないが、看護専門学校があり、卒業後に八鹿病院に勤務すると修学資金を無利子で貸与できる制度等、介護人材の確保・育成に要する費用の一部を助成する制度を設けている。引き続き、現在市内にある教育環境の特色を活かした制度設計に取り組んでいく。</li> </ul>	
事業創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体的に低い。市民アンケートにおいても定住のマイナス要因に「望む仕事がない」「交通の便が悪い」「買い物が不便」の次に挙げられている。多様な働き口を増やしていくためにも、創業支援やコワーキングスペースを設ける事は有効であると考えられる。</li> </ul>	
文化・芸術	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人口あたりの文化・芸術関連の施設数は高く、住民による利用が多い可能性がある。地域の交流拠点の場所として活用することも考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文化・芸術関連の施設利用率</li> </ul>
多様性	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自治体職員における障害者の割合が高く(72.5)、職員の多様な働き方を受け入れている。</li> <li>■ 市区町村議会における女性議員の割合が低い(35.5)が、数年前より採用に力を入れ始めたため、女性活躍を推進するため、引き続き取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市役所職員の女性就業数</li> </ul>

2023年2月20日～2月28日の期間で、Well-being指標の主観データを取得するため、LINEにて市民アンケートを実施。

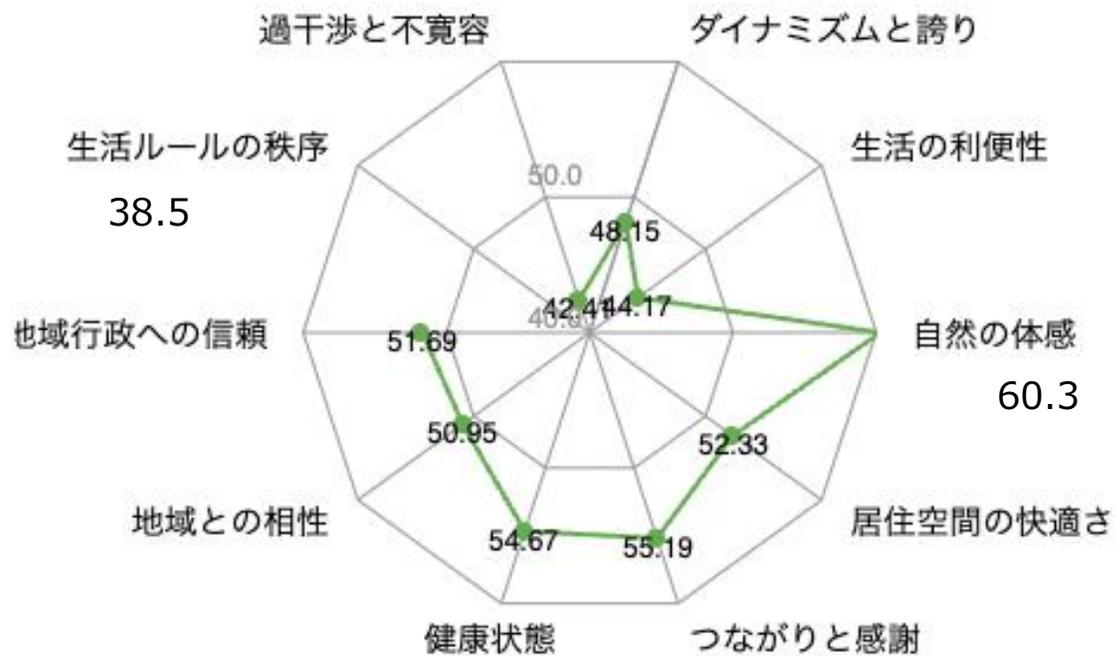


- 「地域生活のWell-being指標」は、慶応義塾大学前野隆司教授らが開発した評価指標です。
- 「地域生活のWell-being指標」は、地域における暮らしの中で感じる主観的幸福感に影響する普遍的な因子を網羅的に抽出したものです。

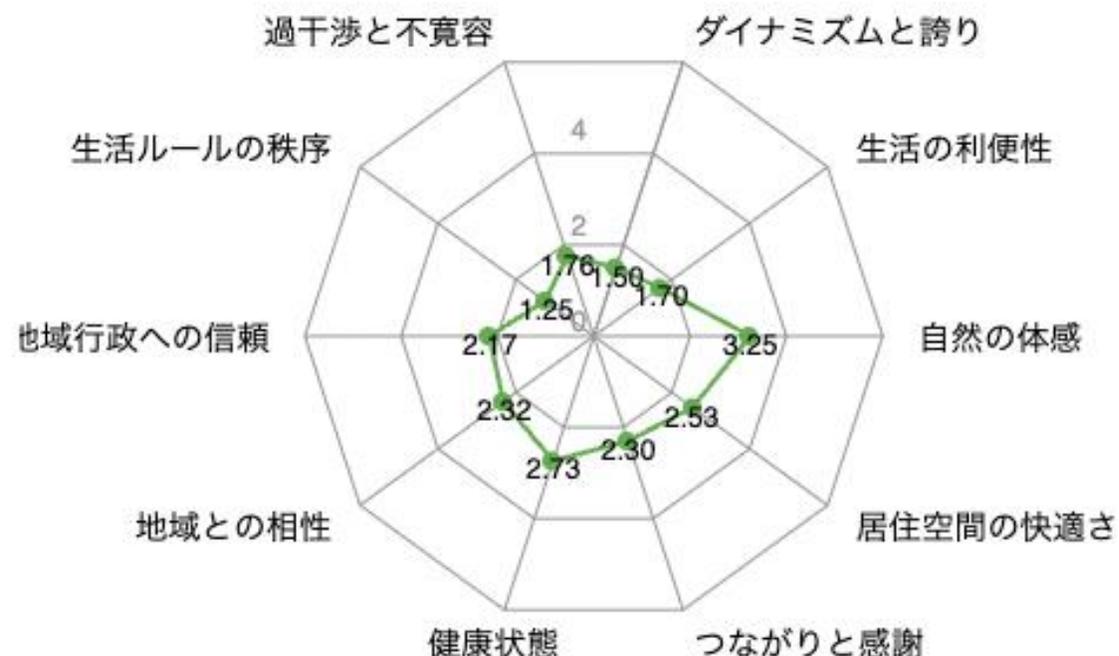


	因子名称	定義
幸せ要因	ダイナミズムと誇り	地域の文化・芸術などが盛んで誇らしく感じる。また地域に賑わいや躍動感があり、出会いや挑戦・成長する機会がある状態
	生活の利便性	日々の生活基盤（商業・医療・教育・交通機関・公共施設など）が整っており、利用しやすく不便を感じていない状態
	自然の体感	地域では自然（海・山・里山・川・湖等）が身近に感じられ、四季折々に向き合うことに喜びがある。また空気や水などが清浄だと感じられている状態
	居住空間の快適さ	自身の暮らす住居について、快適で過ごしやすく満足できている状態
	つながりと感謝	近隣住民に感謝し、良好な関係が維持できている。気の合う仲間や助け合える知人がいる状態
	健康状態	自身は精神的にも身体的にも健康で、不安をあまり感じることなく、笑顔で過ごしている状態
	地域との相性	地域の街並みや風景に愛着を感じ、雰囲気自分が自分にとって心地よく感じられている状態
	地域行政への信頼	行政施策へ賛同し、納得している。地域政治のリーダーや行政を信頼できている状態
不幸せ要因	過干渉と不寛容	よそ者に不寛容で、変わった事をすると角が立つ。近隣住民と（自身にとって）程よい距離が保てず、干渉が煩わしく窮屈さを感じている状態
	生活ルールの秩序	地域の生活ルール（ゴミ出しマナーや交通マナーなど）が守られず、騒音などに悩まされてイライラすることが多い状態

出典：デジタル庁「LWC指標利活用ガイドブック」（2022年12月）



偏差値

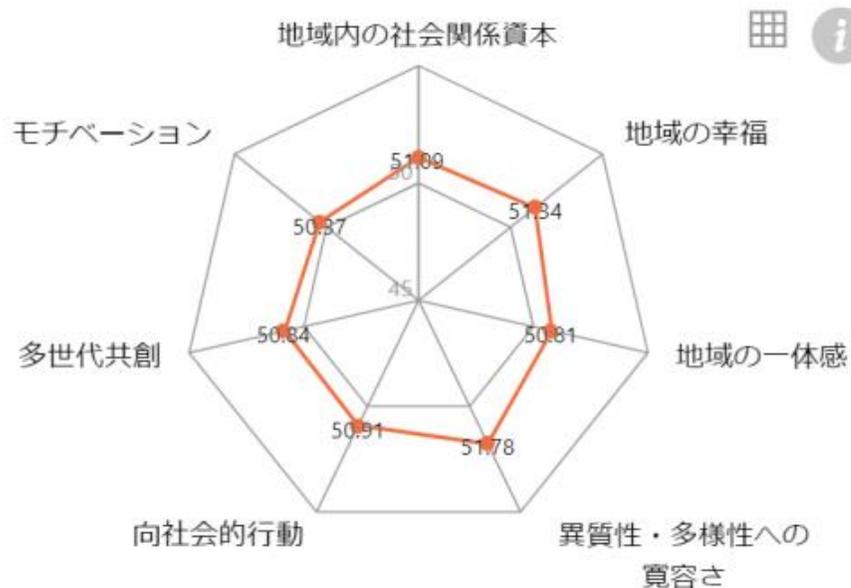


実数(5点満点)

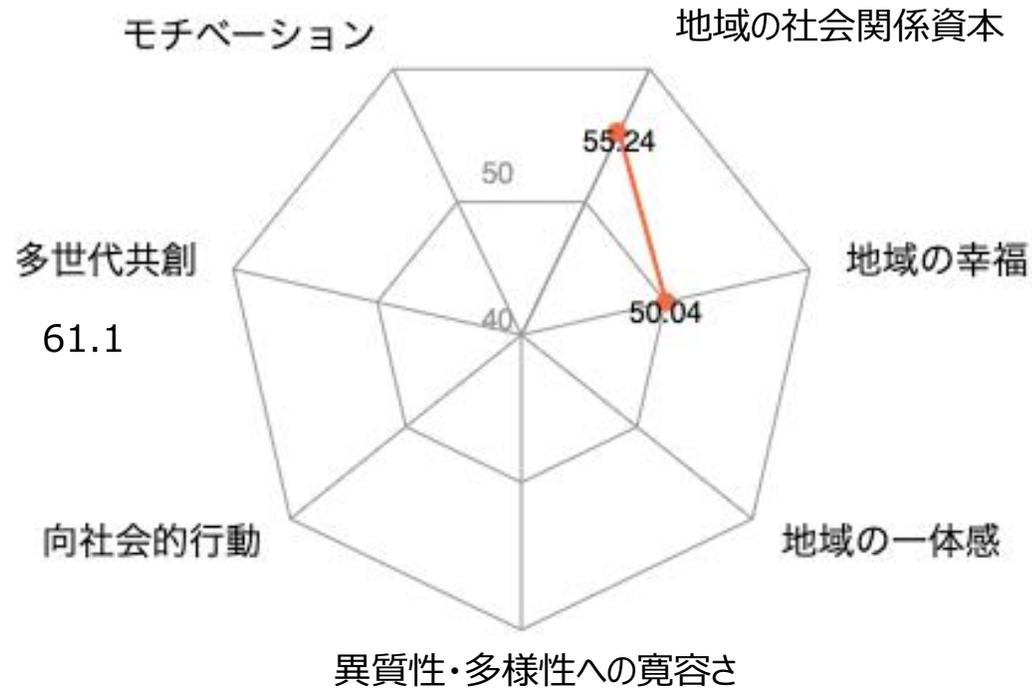
「生活の利便性」以外は、「幸せ要因」は50以上、「不幸せ要因」は50以下であることから、地域において、幸福感を感じられる環境があると言える。特に「自然の体感」の数値は高く、20代男性・女性が他年代に比べて高い。

一方で、「生活の利便性」は低く、改善が求められる。特に「医療機関の充実」「公共施設の利便性向上」において値が低い。医療機関の就業支援や、採用支援を図り、現存する医療機関の提供サービスの向上が有効と考えられる。

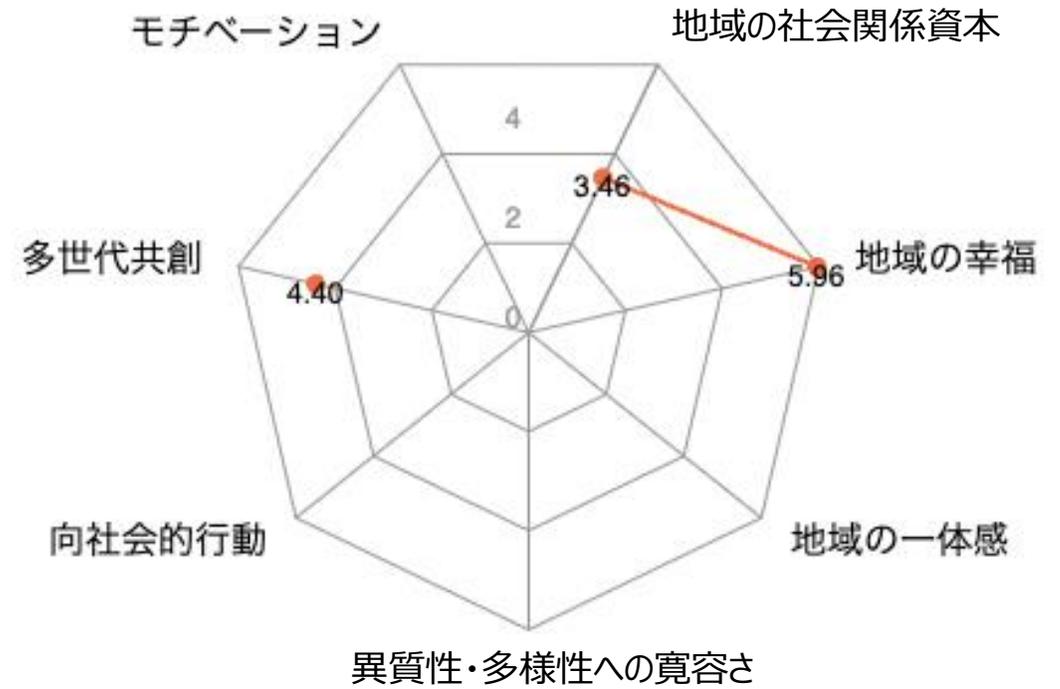
- 「協調的幸福」は京都大学内田由紀子教授らが開発した評価指標です。
- 地域で暮らすことで幸福が感じられ、他者と信頼関係でつながり、また、地域内で誰かの役に立つように向社会的に活動することが、「循環」するような共創的仕組みができているか、そうした地域環境について測定するツールです。
- 地域の協調的な豊かさを、多面的・多次的に評価することで、強味や弱みを理解することができます。また、日本社会の協調的価値観に根差したツールとして開発しています。



因子名称	内容
地域の幸福	個人の主観的幸福、協調的幸福感、健康
多世代共創	後継世代への継承・伝統と革新
地域内の社会関係資本	信頼、互酬性の規範、etc.
向社会的行動	地域内外の他者へのサポート、主体的な発案、地域への貢献行動
地域の一体感	運命共同体、実体性知覚、etc.
異質・多様性への寛容さ	開放性、地域外への信頼、etc.



偏差値

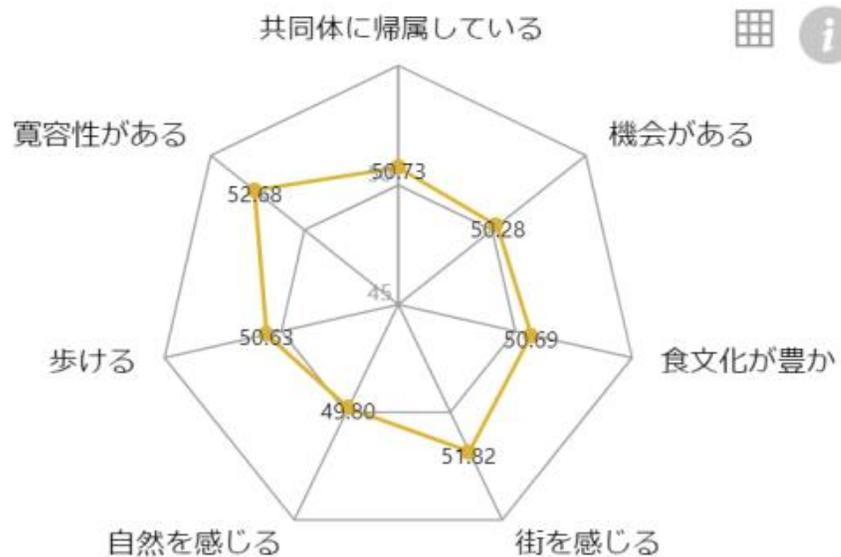


実数(10点満点)

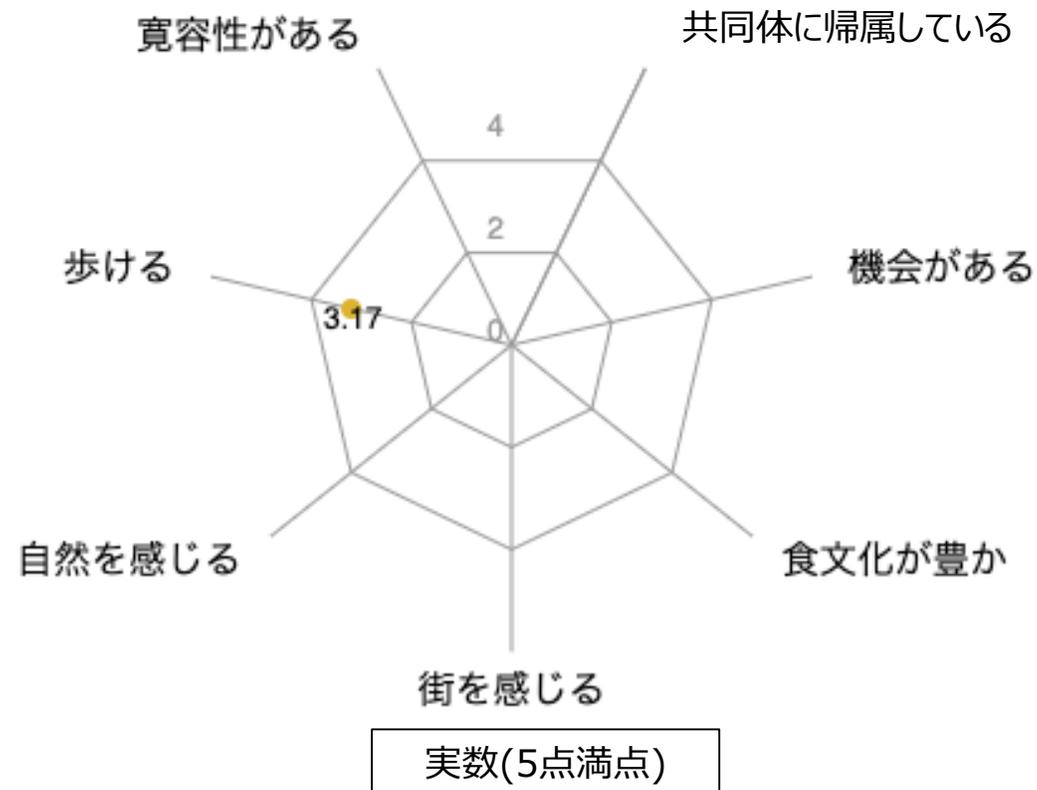
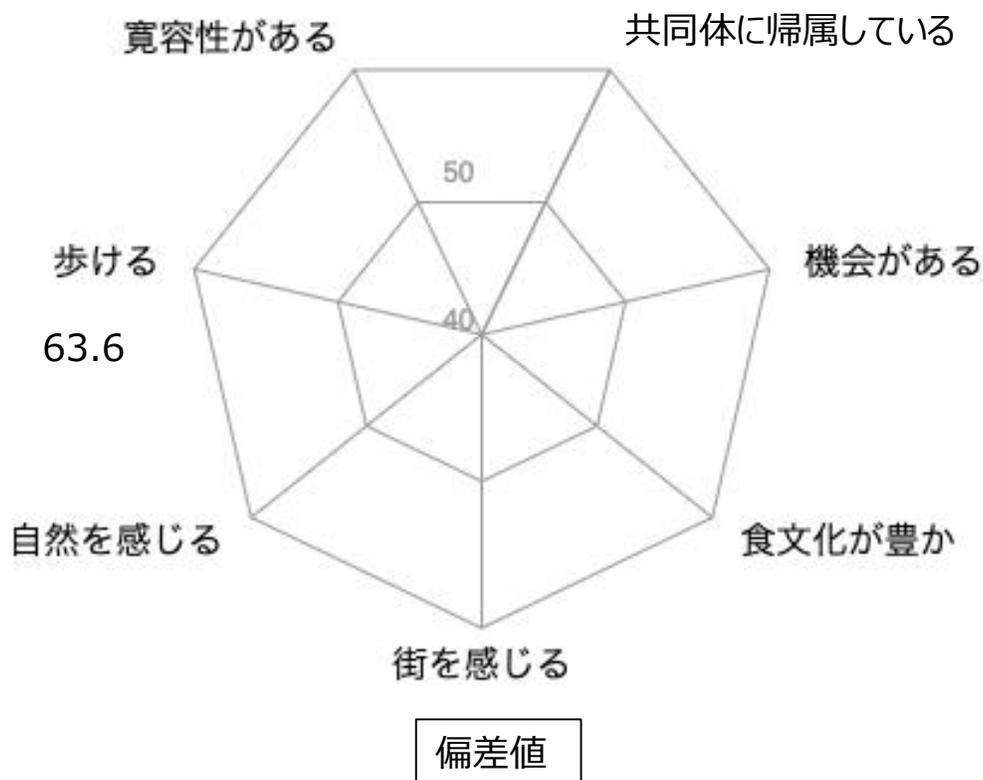
後継世代への継承意識(多世代共創)と助け合いの精神が強く、集落内での信頼関係があることから、集落全体の幸福度が高く、個人の幸せにつながっている。これは、18区の自治協の活動によって、地区内の繋がりが保たれていることが考えられる。また、地域住民が主体的に集まるイベントや祭りが存在しており、多世代の交流が多く図られていると考えられる。

一方で、「町内にはいざという時に助け合う雰囲気がある」という点では、20代女性の回答が低い値の傾向にあるため、仕事と家庭の両立サポートなど、世代に沿ったサポート施策が必要な可能性がある。

- 「センシユアス・シティ」は、LIFULL HOME'S 総研 島原万丈所長が開発した評価指標です。
- 市民の「実体験」という動詞での評価から、地域の「体験価値」都市の実相を可視化します。
- 地域を他人との関係性の指標と、体験から五感で知覚する身体性指標、寛容性の有無で計測します。

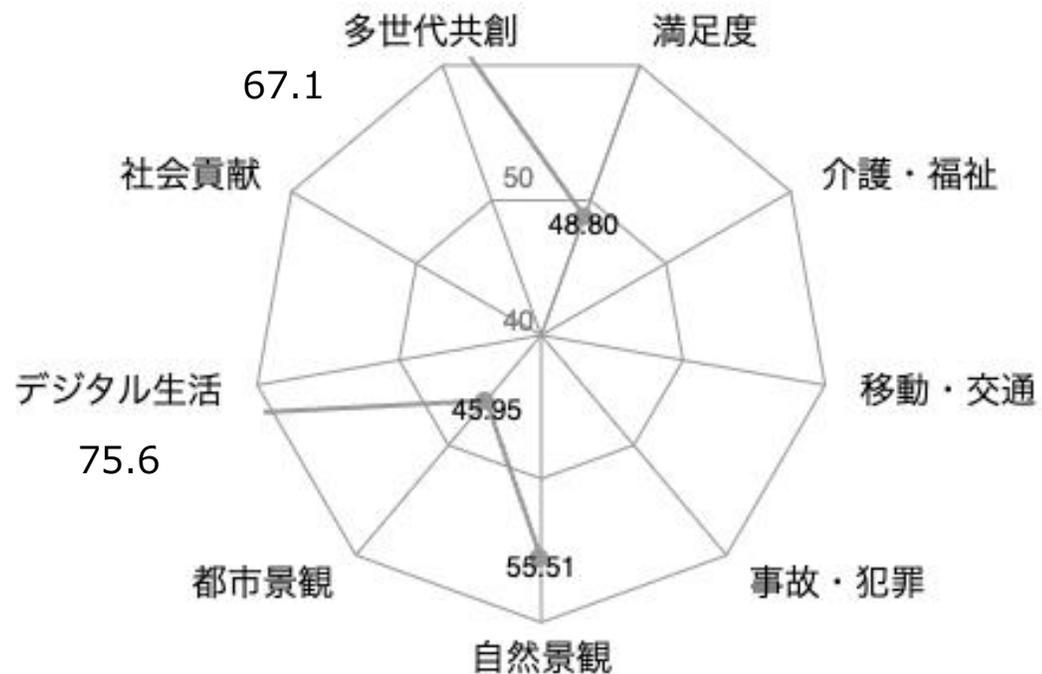


センシユアス・シティ	
因子名称	内容
共同体に帰属している	このまちの一員であるという実感が持てるか
機会がある	文化的充足や経済的成功の可能性となる機会(チャンス)があるか
食文化が豊か	地産地消型食生活や観光の切り札となる食文化があるか
街を感じる	多くの人の活動や営み、賑わいを感じるか
自然を感じる	まちの中に自然から感じる心地よさがあるか
歩ける	まちは歩けるか、歩いていて楽しいか
寛容性	
因子名称	内容
寛容性がある	まちには、寛容性があるか

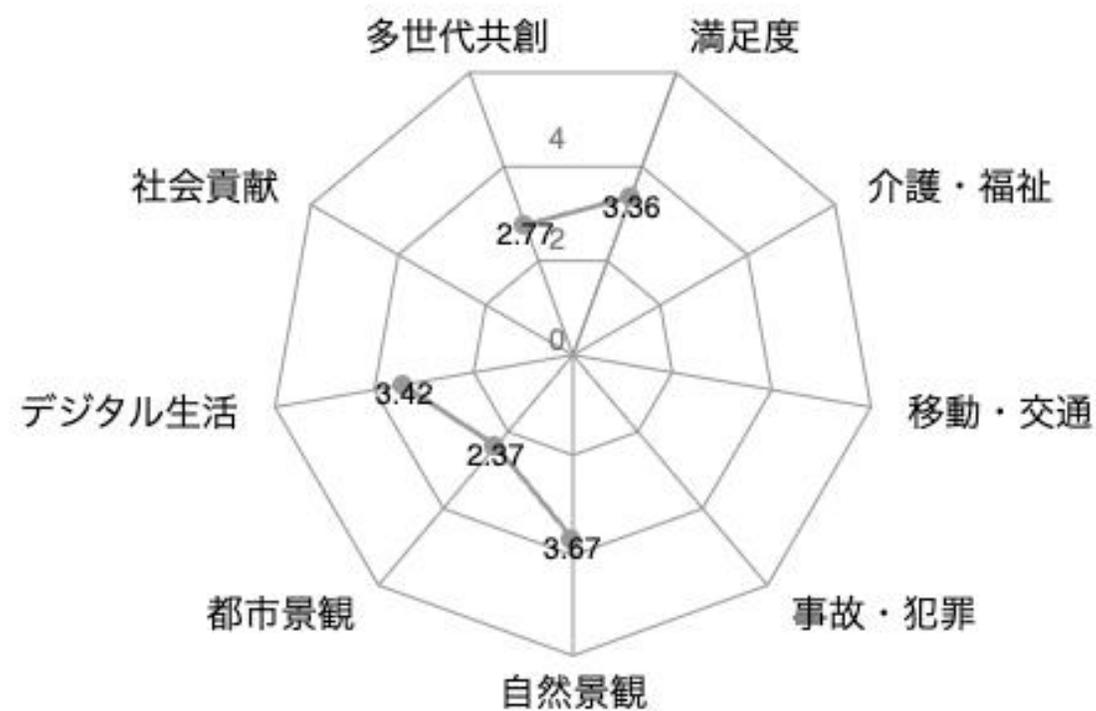


「街は歩けるか、歩いていて楽しいか」の数値が高く、世代別で見ても、平均して高い。これは、中山間農業改革特区として、「スマート農業」や企業誘致などの取り組みをしている結果、農地の保全に個人や企業が日常的に関わっており、また、林業の従事者が多いため、自然景観が保たれていると考えられる。「個人因子」の結果、「自然の体感」によって市民の幸福度が高まっているため、自然保全は引き続き注力していく。

養父市のスマートヴィレッジ構想では、健康ポイントの付与・利用をデジタル化するため、より市民の「街を歩く動機」を創出し、健康維持に寄与していく。



偏差値

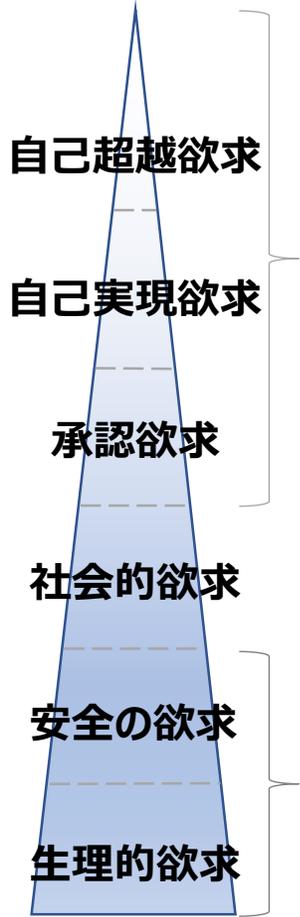


実数(5点満点)

養父市のスマートヴィレッジ構想では、地域として「中山間地域の際をなくす」、福祉として「デジタルで共助を後押し」、人とのつながりとして「関係人口の増加」に取り組むことを掲げている。これらに関して現状を把握するため、関連する質問を行った。

「行政手続き等のデジタル化を実感するか」についての質問に対して、実感していると答える回答が多く、デジタルツールの利用に前向きな傾向がある。今後は、新しく提供するサービスも含め、サービス利用率を高めるよう、説明会の実施等に取り組んでいく。また、既に築かれている地域内の助け合いの風土を活かし、地域の見守り体制を強化しつつ、デジタルで暮らしの利便性を高め、市民の満足度向上につなげていく。

マズローの  
欲求6段階説

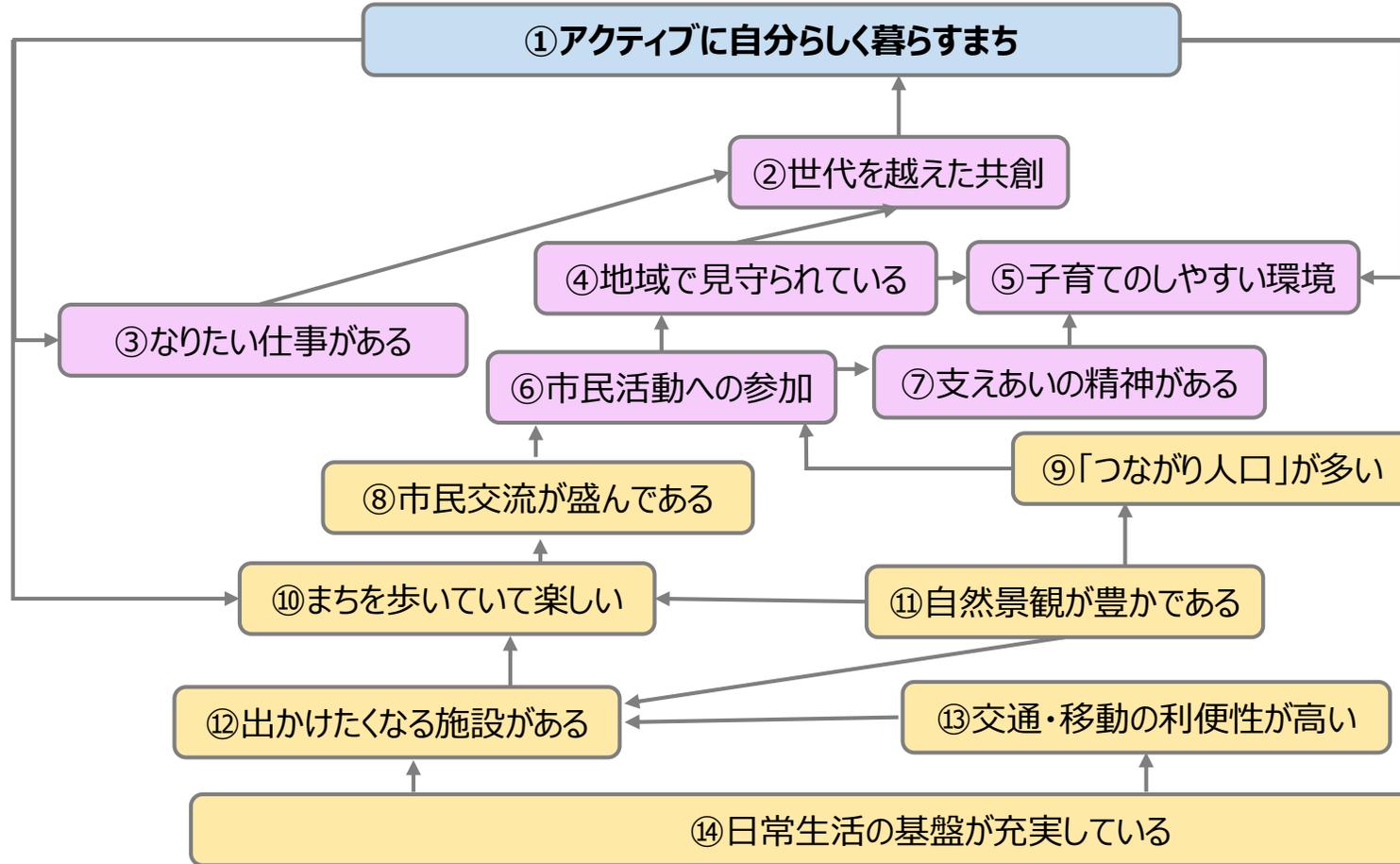


精神的健康  
社会的健康  
身体的健康

快楽的幸福  
(ヘドニア)

持続的幸福  
(ユーダイモニア)

医学的幸福  
(メディカル)



【該当するKPI】

- ① ダイナミズムと誇り
- ② 多世代共創
- ③ 機会がある
- ④ 地域内の社会資本関係
- ⑤ 居住空間の快適さ
- ⑥ 向社会的行動
- ⑦ 地域の幸福
- ⑧ 共同体に帰属している
- ⑨ 多様性指数
- ⑩ 歩ける
- ⑪ 自然災害
- ⑫ 人口あたり娯楽事業所数
- ⑬ 駅・バス停留所徒歩圏人口カバー率
- ⑭ 商業施設徒歩圏人口カバー率

緑色：客観  
オレンジ：主観

- ・政策に対する「満足度」「重要度」を計測するアンケートの実施
- ・調査したWell-Being指標の分析手法と活用策の確立
- ・庁内のWell-Being の考え方周知と各部局による幸福ストーリー図の作成・検証
- ・「主観指標」となるアンケート回答数の増加